

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

日本大百科全書

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

22

ませーもぬ

小学館

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

日本大百科全書 22

©SHOGAKUKAN 1988
1988年7月1日 初版第一刷発行
定価 7,800円

編集著作 相賀 徹夫
出版者

発行所 小学館

郵便番号 101-01

東京都千代田区一ツ橋2-3-1

振替 東京8-200番

電話 編集・東京03-230-5620

業務・東京03-230-5333

販売・東京03-230-5739

印刷所 凸版印刷株式会社

本文 (特抄百科用紙) 王子製紙株式会社

口絵 (特抄アート紙) 三菱製紙株式会社

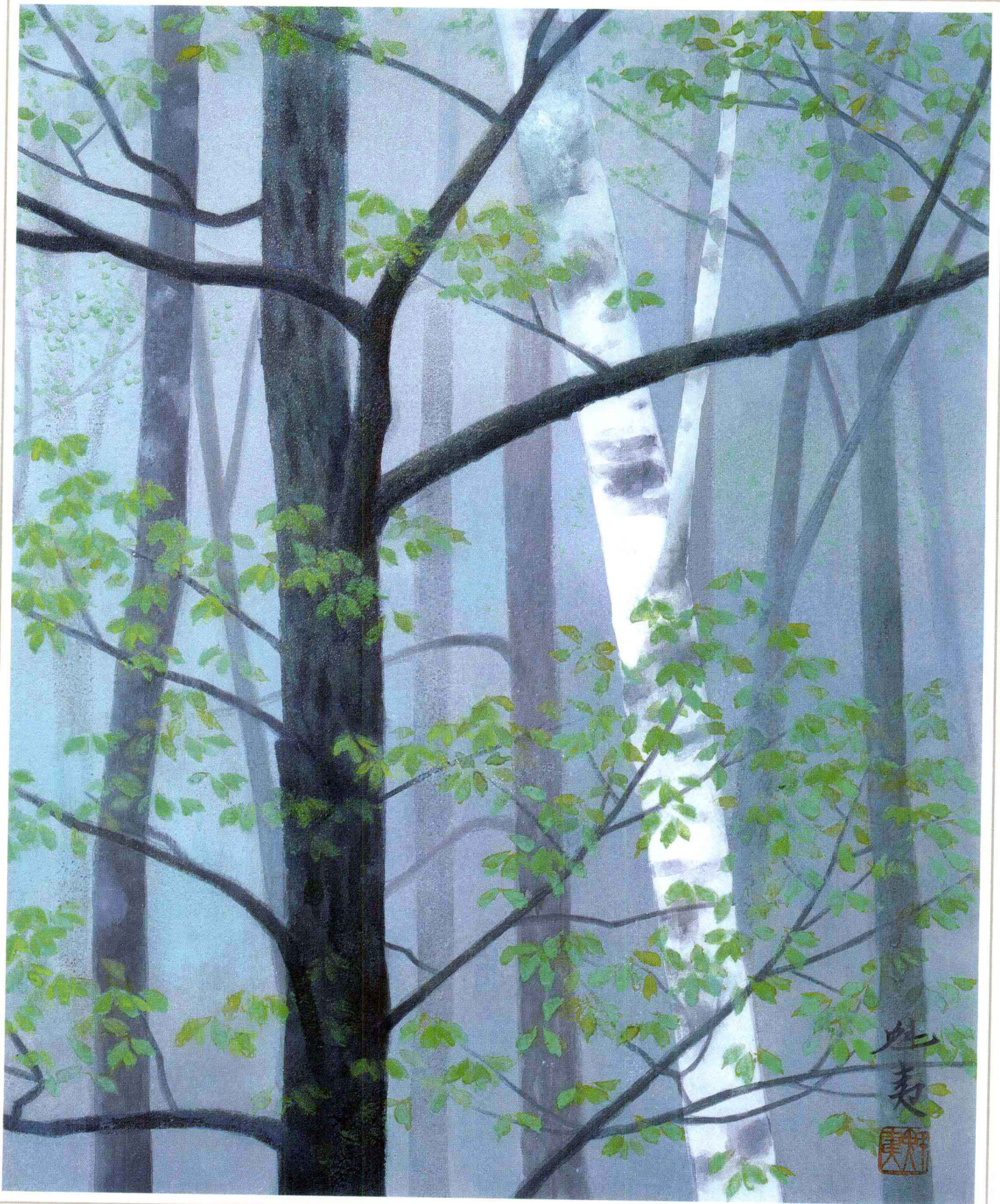
表紙 (特製クロス) ダイニック株式会社

製本 凸版印刷株式会社
若林製本株式会社

- *本書に掲載した日本関係地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図、20万分の1地勢図、2万5千分の1土地利用図を使用したものです。
- *造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。
- *本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

ISBN4-09-526022-X



東山魁夷『朝霧』部分



東山魁夷画『朝霧』

1962年（昭和37）38.0×55.0cm

朝霧が流れる。
林の奥の夢幻の空間へと、
メランコリックな旋律が
静かに奏でられる。

（東山魁夷・文）

歴史の見直し

近年「歴史の見直し」が、世界的な現象として徐々にではあるが、確実に進められているように思う。新しい資料の急激な増加や、その整理される過程で、歴史の学問そのものが自然に拡大されてきたからである。

そのもつとも顕著な実例として、ヨーロッパ中心の世界史観が揺らごうとしている。西欧ではギリシアからローマへ、ローマからゲルマンへと文明が拡大し、発展したとみる史観であった。ところが、二〇世紀に入って古代オリエントの研究が進み、ギリシア文明の根源が、東地中海域を含めた古代オリエント文明にあったことが究められる。またゲルマン文明は、ローマ文明とは根源を異にし、そのルーツが北方ユーラシアの遊牧民系諸文明に連なるものであったことも明らかにする。

思えば遊牧民族は、凶暴かつ好戦的な民族として恐れられ、ひとしく野蛮・未開で、文明とはおよそ無縁な人々として史書に記述されてきた。したがって西欧人が、彼らに近・現代文明の根源があるなど、想像もしなかったことに不思議はない。しかし、ハムラビ法典で有名な古バビロン王国、世界国家を最初に興したアケメネス朝ペルシア帝国、東西両洋にわたるヘレニズム世界を開いたアレクサンドロス大王のマケドニア王国も、また大乘仏教やガンダーラ美術によって仏教をひろめたクシヤン帝国も、その仏教を受けて、敦煌・雲崗・竜門の諸仏窟を開き、東西の宗教や美術の交流の先駆をなした鮮卑族の北魏も、さらにイスラム教を創めて、広大な宗教国家を実現したイスラム・アラビア帝国も、イギリス・北欧・ロシアなどの各地にノルマン王朝を開いて、近代ヨーロッパの発展に寄与したノルマン系諸国家も、なおまた「タタールの平和」をもつて、東西文明の交流に一時期を画したモンゴル帝国も、現在の中国の基礎を築いた満州族の清国なども、いずれもその征服王朝国家の建設者の三代前に遡れば、牧畜民族、とくに遊牧騎馬民族なのである。

その建国された征服王朝というものは、多民族の合作国家であり、国際的な、多方面の文化を自由に取り入れた「開かれた文明」の国家であった。そこには諸文明の尊重とその実現ばかりでなく、契約思想・自由主義・民主主義・人権主義など、農耕・都市文明に本来欠如していた思想が、それぞれの国家の性格として内在していたのである。しかも遊牧騎馬民族に固有な民族性として、彼らの卓抜した軍事・政治・外交の手腕、また豊かな管理能力や適時応変の組織能力とともに、彼らの征服王朝国家の実現を可能にしたのである。圧倒的な人口や、膨大な社会・経済力を持ち、歴史的な大文明を誇った農耕・都市文明の物質的な「見える文明」に打ち勝ったのも、彼らのそのような頭脳のなかにある「見えない文明」に他ならなかったのである。

このような世界史上の画期的な「歴史の見直し」がいまや始められつつあるが、そしてそのことは、現代ならびに近い将来の世界史を考えるうえに、重大な示唆を与えるものではなからうか。

江上波夫

(江上波夫)

装 丁

亀倉雄策

本扉／書

青山杉雨（連作書体のうち、清時代、何子貞書法による行書）

巻頭口絵

東山魁夷

本文五十音題字

木元壽美江

まぜ



マセイス 『両替商とその妻』 1514年 板 油彩 71×68 cm パリ ルーブル美術館 風俗画のような主題だが、秤は「正義」と「最後の審判」を、泥棒よけの凸面鏡は「虚栄」を象徴している。宗教的、道徳的な意味が込められ、これはエラスムスなどの人文主義者の影響の反映といわれる

磨製石器類には旧石器時代唯一の局部磨製石斧、縄文時代の磨製石斧類、小形局部磨製石斧、擦切石斧、乳棒状石斧、定角式石斧、小形磨製石斧類や、非美用的な石棒、石剣、石冠、独鈷石、青竜刀、石器、御物石器、磨きあげて文様を刻み込む岩偶、岩版など、弥生時代の磨製石斧類、太形、蛤刃石斧、扁平片

馬瀬村) まぜむら 岐阜県中部、益田郡にある山村。益田川に並行して、南飛騨の西部を南流する支流の馬瀬川に沿っており、東隣の比較的谷幅の広い益田川沿いの平地に、萩原・下呂両町の中心地が連なっているのと対照的に、細長く谷幅の狭い僻村。耕地に恵まれず、農業は自給的で、一部で市場向けにトマト、夏ギクを栽培する程度。東境の日和田トンネル経由で、萩原・下呂両町への通勤者が多い。若者の離村が目立つ。人口一六三一。

【地】二万五千分の一地形図「位山」「山之口」

【萩原】「下呂」「飛騨大原」「二間手」

マセイオ Maceio ブラジル北東部、アラ

ゴアス州の州都。レシフェの南西約一九〇kmに位置する。人口三七万五七七一(一九〇〇)。サト

ウキビ地帯の中心をなす港湾都市で、砂糖のほかタバコや綿花の輸出港であり、漁業基地でも

ある。植民地時代の雰囲気のある町並みを持ち、州政庁やメトロポリタン教会など当時の建物が少なくない。付近には同国有数の海浜保養地が多い。近年、近くで石油が発掘され活気を呈している。

〈山本正三〉

マセイス Quentin (Quinten) Massys

(Matsys, Metsys) (一四六五/六六—五〇〇) フラ

ンドルの画家。マツエイス、メツエイスともい

う。ルーフェンで生まれ、アンベルスで没し

た。後期ゴシックとイタリア・ルネサンスの過

渡期に位置する画家で、北欧と南欧の様式を融

合に導いた点でルーペンスを先取りする立場に

ある。初期の作品が失われているので画家とし

ての系譜には不明な点が多いが、故郷で活躍し

た画家ボウツの絵とは多くの親近関係が認めら

れる。一四九一年以降アンベルスに定住し、エ

ラスムスやモアらの人文主義者と親交を結ぶ。

またイタリアに旅行して、明快な色彩とコンポ

ジションによる新しい立体感を獲得した。一五

一五二四年にはパティエールと共作を行った

(『聖アントニウスの誘惑』マドリッド、個人

蔵)。代表作にはアンベルス大聖堂のための祭

壇画『キリスト埋葬』(アンベルス王立美術

館)、『聖母子像』(西ベルリン、ダーレム美術

館)、『両替商とその妻』(ルーブル美術館)が

ある。

磨製石器 ませいせつき 石材加工の三基本技

術の一つ「磨く」方法によって最終的に形を整

え、機能を与えた石製器具類をさす。石製の砥

石(砂岩)を用いて研ぎ減らす作業が行われる

が、初め打ち割る技術によって粗く形をつけて

おくこと、あるいは磨きの効

率をあげるために、さらに敲

打によって割れ面の凹凸をな

らすように調整する作業もあ

わせて行われることがある。

磨製石器類には旧石器時代唯

一の局部磨製石斧、縄文時代

の磨製石斧類、小形局部磨

製石斧、擦切石斧、乳棒状石

斧、定角式石斧、小形磨製石

斧類や、非美用的な石棒、石

剣、石冠、独鈷石、青竜刀

石器、御物石器、磨きあげて

文様を刻み込む岩偶、岩版な

ど、弥生時代の磨製石斧類

——太形、蛤刃石斧、扁平片

刃石斧、柱状片刃石斧(挾入石斧、有角石斧、環状石斧、多頭石斧や、石包丁、大形石包丁、磨製石鎌、金属製武器模倣の石剣類、紡錘車などがある。磨製石斧は立木の伐採に打製石斧より切れの効率がよいという。多くは比較的磨きやすい岩石——砂岩、粘板岩、片岩類、蛇紋岩などが用いられるが、とくに弥生時代の太形蛤刃石斧には硬い安山岩、斑岩、閃緑岩が用いられている。↓石器

混ぜご飯 まぜごはん 米飯に何か加えるのが混ぜご飯であり、二つの種類に分けられる。

一つは米を節約する目的でアワ、ヒエ、キビなどを混ぜて炊くもの。もう一つは季節の材料や魚貝類、肉類などを加えてつくる。後者は塩やしょうゆなどで味つけたご飯に、別に調味した具を混ぜ込んだもので、ご飯料理の一つである。一般には混ぜご飯といえはこのご飯料理をさしている。米と具を同時に炊いたものは炊き込みご飯という。青菜を刻んで混ぜた菜飯は混ぜご飯の一種である。たけのご飯、まつたけ飯、五目飯なども、米とともに炊き込めば炊き込みご飯に、別に煮てご飯に混ぜれば混ぜご飯になる。そのほか、五目ずしも混ぜご飯の一種である。↓五目ずし ↓炊き込みご飯(河野友美)

マコーバ Мара Мара

Степанович Мара (一八七—一九二〇) ロシア・ウクラ

イナのゲットマン(首領)(一八七—一九二〇)。ウ

クライナの貴族の家に生まれる。ポーランド宮廷で教育された。

左岸ウクライナ・コサツクのゲットマンに選ばれ、ウクライナ最大の土地所有者の一人となる。ピョートル一世の外征に参加して信用を得たが、のちウクラ

イナの独立を図るようになった。初めポーランド王と、ついでスウェーデン王カール一二世と交渉し、大北方戦争でスウェーデン軍が



マゼラン雲 大マゼラン雲と小マゼラン雲を総称するが、写真は大マゼラン雲。銀河系にもっとも近い銀河で、宇宙の科学を研究する上で重要な対象である

ロシアに侵入すると、公然とスウェーデン側につき(一七〇〇)、翌年ポルタバの会戦でピョートル軍に敗れると、カール一二世とともにトルコ領に逃れ、同地で死去した。〈伊藤幸男〉

マゼラン Magellanic Clouds

わが銀河系のすぐ隣にある銀河。大マゼラン雲(赤経五時二四・〇分、赤緯マイナス六九度四

八分、かじき座)と小マゼラン雲(赤経〇時五

一・〇分、赤緯マイナス七三度六分、きょしち

ょう座)の二つの不規則型銀河からなり、地球

上互いに約三度離れている。視直径はそれぞれ一〇・八度、四・七度と非常に大きく、肉眼

では淡い小さな雲のように見え、南十字星とともに南半球の空を代表する天体。一五世紀ころから南方へ行く船乗りの間でその存在が知られていたが、初めて世界一周の航海をしたマジェランにちなんで名づけられた。

距離が約二〇万光年と、わが銀河系にいちばん近い銀河で、その明るい星々は一つ一つに分解して観測できるため、天文学上、きわめて重要な天体である。一九二二年、H・リービットは、マゼラン雲中に多くのケフェウス型変光星をみつけ、その変光周期と光度との間により相

関があることを発見した。これは、その後、天体の距離を測る強力な手段となり、二四年、E・ハッブルによる「銀河系外星雲（銀河）」の概念の確立へとつながった。七〇年代になって、南半球でも巨大な望遠鏡が建設されると、マゼラン雲の星団、HII領域、暗黒星雲などがより詳しく観測できるようになり、星や銀河の構造、進化、化学組成などの研究に欠くことのできない天体となっている。最近、マゼラン雲を取り囲む水素ガス雲が発見され、これらが天球上をほぼ一周するように分布していることから、マゼラン雲がわが銀河系と衝突しているのではないかと説が有力である。〔若松謙一〕

マゼラン海峡

——かいきょう Strait of Magellan 南アメリカ南端部の本土とフエゴ島とを分ける長さ五八三kmの狭い海峡。スペイン語ではマガリヤネス海峡 Estrecho de Magallanes といふ。沿岸一帯は一部のアルゼンチン領を除き大部分がチリに属す。一五二〇年マゼラン（マゼラン）によって発見されて以来、大西洋と太平洋を結ぶ航路として利用されてきたが、パナマ運河の開通によって重要性を失った。海峡の東半は幅がやや広く、兩岸には緩く波打った平原が続くが、西半は兩岸に切り立った山地が迫るフィヨルド状の狭い水路をなす。東部では最大一三・五層に及ぶ潮差とそれによる速い潮流、西の出口付近では強い偏西風による恒常的な暴風にみまわれるなど、航行には多くの困難が伴う。東部沿岸の平原はヒツジの放牧を行う大規模牧場（エスタンシア）地帯であるとともに、チリでもっとも重要な油田地帯でもある。海峡のほぼ中ほどに、これらの産物の積出し港としてにぎわうプンタ・アレナスがある。

マゼランペンギン

Magellanic penguin ④ Spheniscus magellanicus 鳥綱ペンギン目ペンギン科の海鳥。全長約七二cmの中形種。南アメリカ南端の沿岸海域にすみ、島で集団繁殖する。多様な環境で営巣し、裸地では土中に浅い穴を掘って巣とし、二卵を産む。↓ペンギン

マセリ

Maseu アフリカ南部、レソトの首都。同国北西部、南アフリカ共和国との国境をなすカレドン川沿岸に位置する。人口約七万（一九〇〇）。同国はかつてバーストランドと称し、イギリスの保護領であったが、一八六九年、バーストランド副高弁務官J・H・ボウカーはこの

地に本部を置いた。同地が防衛にも通商にも便利であったためである。一九六六年独立とともに首都となった。町の中心はキングス街で、両側に主要官庁や商店、銀行が並んでいる。レソトに居住するヨーロッパ人の多くはマセリに住む。

〔林 晃史〕

マゼール

Lorin Mazel (一九三〇—) アメリカの指揮者。パリ近郊ヌイイ生まれ。ピッツバークで育ち、一九四五年バイオリン奏者としてデビュー。ピッツバーク交響楽団の副指揮者を経てイタリアに留学、頭角を現して六〇年、三〇歳でバイロイト音楽祭に登場した。以来、ベルリン放送交響楽団、ベルリン・ドイツ・オペラ、クリューブランド管弦楽団、ウィーン国立歌劇場などの首席指揮者や音楽監督を歴任、カラヤンに続く世代の指導的な指揮者の一人という評価を得るに至った。六三年（昭和三八）ベルリン・ドイツ・オペラに同行して初来日。ダイナミックな演奏で知られたが、年とともに柔軟さを加え、近年は叙情性をも重視する傾向を示している。ロマン派以後の作品を広くレパートリーにしている。

媽祖

媽祖 中国の代表的航海神。初めは福建莆田海辺の郷土神であったが、宋代の元祐二年（一〇八二）に泉州が貿易港として開放され船舶司（貿易管理機関）を設置するようになったことから、にわかに舟師（船子）の信仰が盛んになり、たちまち福建・浙江一帯に広まった。元代に入ると、江南から燕京への米穀輸送船の遭難にしばしば顕靈して朝廷から「天妃」の号を封ぜられて全国的に航海守護神化され、船ごとに祀られるようになった。明代になると、一時信仰が内地に広がっていったが、一四〇五年から鄭和らの西洋（南海）遠征大船団、ならびに琉球冊封使船の往来にしばしば顕靈して祀られ、さらには海外貿易者の進出に伴い、琉球、日本（薩摩、長崎、水戸など）、また台湾および南洋各地にも信仰が伝わった。さらに清代には、鄭（成功）氏の変を克服したのち「天后」に封ぜられた。それで祠廟は宋代の封号や天妃・天后、または民間の称号「媽祖」を冠して名づけられることが多い。近代にもすると、信仰者の願望に従い、女神であることも手伝って、しだいに誕生、育児、疾病などを祈る家庭神に変化した。

〔李 献璋〕

④ 李献璋著『媽祖信仰の研究』（一九六・泰山文物社）



マゼール 木之下晃 撮影

マゾッホ

マゾッホ ④ ザッヘル・マゾッホ masochism 性目標の質的異常（性倒錯）の一種で、被虐性愛ともいう。性対象に苦痛を与えたり（サディズム）、与えられたり（マゾヒズム）することによって性的快感や満足を得ようとするアルゴラグニー Alloglagnie（疼痛性愛、苦痛嗜愛）に含まれる。

実生活や小説のなかでこの種の性行動を典型的に示したオーストリアの貴族マゾッホの名にちなんだもので、ドイツの精神医学者で、異常性欲者の精神鑑定を多く手がけたクラフト・エービング Richard von Krafft-Ebing（一八四一—一九〇二）が命名した。男女ともにみられ、異性に暴行、凌辱、処刑などを受けることによって強

い性的興奮と満足を得たり、またはその情景を幻想して自己をその犠牲者として同一視することによって同様の満足を得るもので、マゾヒズムとサディズムは同一人にも重複して現れる。↓ザッヘル・マゾッホ ↓サディズム

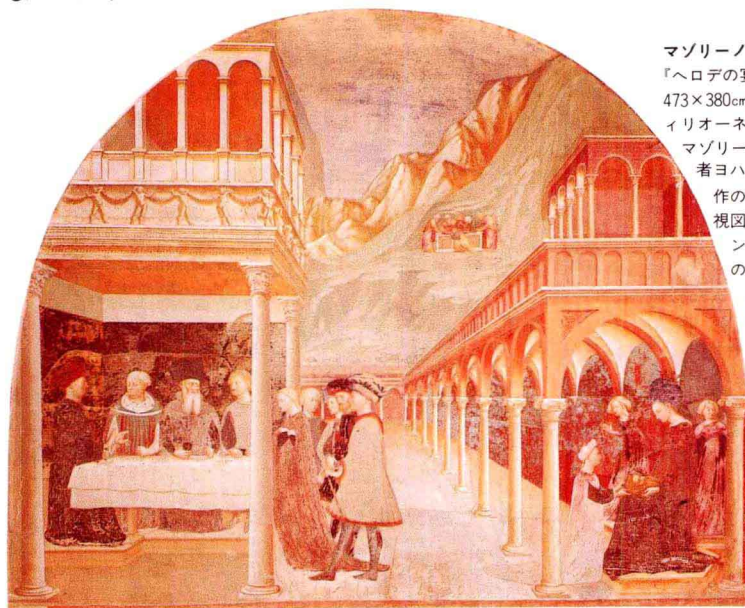
〔文学にみるマゾヒズム〕女性が本来は弱性であるにもかかわらず、エロティックな魅惑を通じて男性を「愛の奴隷」たらしめるといふ文学上のトポス（表現の場）は古くから存在した。けれども、人間性の大きな振幅のなかでの性愛の一つの形として理解されて、「愛の奴隷」のトポスが一つの完結した倒錯的性愛表現として固定されるのは、キリスト教的精進主義として遭遇を通じてである。「愛の奴隷」のテーマは、愛する貴婦人を神格化する恋愛詩人の詩作品や一五世紀謝肉祭劇のなかに集中的な表現をみいだしたが、やがてそれは、聖セバスチアンの殉教におけるような殉教願望や、聖テレサの見神

の恍惚におけるような、苦痛を神からの愛の贈り物とみなす宗教的・道徳的マゾヒズムにまで高まってゆく。

一方、デリラに欺かれるサムソン、イブに誘惑されるアダムといった、古くからの「賢い（あるいは狡い、弱い）女の奸計に陥る強い男」という「女上位」の寓意表現は、ほぼ一三世紀ごろから「愚かな女（蒙昧なる肉）に征服される賢い男」という新たなバリエーションを創出した。近代の意味でのマゾヒズムは後者の文脈に沿って展開し、ゲーテの戯詩『リリーの公園』からハインリヒ・フォン・クライストの『ペンテジレア』（一八〇六）、ボードレールの『悪の華』（一八五五）を経て、ゾラの『ナナ』（一八八〇）のミューア伯爵のマゾヒズム描写に結実する。なかでもザッヘル・マゾッホの『毛皮を着たビーナス』（一八六九）はその頂点に位置し、マゾヒズムというクラフト・エービング博士による病理学的命名も、この小説の作者名に由来する。

マゾリーノ・ダ・パニカーレ Masolino da Panicale (一三三〇—一四一〇) イタリアの画家。本名 Tommaso di Cristofano Fini。バルダッノのパニカーレに生まれる。バザリはその『美術家列伝』のなかで、彼をマサッチョの師匠とみなしているが、事実は同郷の先輩で一〇年以上も年長でありながら、彼のほうがむしろマサッチョから感化されるところがあったと考えられている。一四〇三—一四〇七年ごろ、フィレンツェ洗礼堂の青銅門扉制作中のギベルティのもとで働いていたことがあり、その時期に、彼の絵画特徴づけける国際的ゴシック様式に傾倒したようである。その後フィレンツェの画家組合に加入する二三年ころまでの消息は不明であるが、この年の『聖母子』（ブレーメン美術館）にはロレンツォ・モナコの影響が顕著に認められる。

一四二七年にハンガリーに赴くが、それ以前からサンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂プランカッチ礼拝堂の壁画を手がけており、まもなく帰国して、共同制作者マサッチョの死後、サン・クレメンテ聖堂の装飾のためローマへ出かけるまでの間（一四二七—一四三〇）にも同礼拝堂で制作に従事したようである。二人の分担部分の識別がいまなおむずかしいのは、マゾリーノによってマサッチョの画風がかなり忠実に踏襲されたためである。その後、枢機卿ブランド・カス



マゾリーノ・ダ・パニカーレ
『ヘロデの宴』 1435年 フレスコ
473×380cm 北イタリア カステ
イリオーネ・オローナ 洗礼堂
マゾリーノの晩年の作品「洗礼
者ヨハネの生涯」を描いた連
作の一部。建物の巧みな透
視図法、光の描写はルネサ
ンス絵画にふさわしいも
のだが、背景の山中の「ヨ
ハネの埋葬」の描写や、
細長く引き伸ばされた
人物の流動的な曲線
は国際ゴシックの
特徴を示す

ティリオーネに要請され、コモ湖に近いカステ
イリオーネ・オローナの参事会聖堂と洗礼堂に
『聖母マリアの生涯』および『洗礼者ヨハネの
生涯』を描いたが、前者には署名が、後者には
一四三五年の制作時が銘記されている。没年は
不明であるが、一四四七年以後の消息を裏づけ
る資料はない。

〈濱谷勝也〉

マタイ Mathios イエスの直弟子で、い

わゆる十二使徒の一人に数えられている。「マ
タイ伝福音書」によれば、このマタイは取税人
で、収税所に座っているときにイエスから呼び
かけられ、ただちに彼の弟子になった。ところ
が、「マルコ伝福音書」と「ルカ伝福音書」は、
(アルパヨの子)レビについて、同じような召
命の場面を描いている。ことから、マタイとレ
ビが同一人物であるかどうか長い間議論され

てきたが、結局、両者を同一視するための決定
的根拠はみいだされていない。また、古代教会
史家エウセビオスは、使徒マタイがヘブライ語
で福音書を書いたという古い伝承を記している
が、近年では、使徒マタイと福音書記者マタイ
を区別する説のほうが有力である。しかし、両
者がまったく無関係であったといえず、なお
問題が残されている。そのほか、マタイの伝道
や殉教をめぐる、種々の伝承があるが、そ
の根底に潜む史実は依然として不明である。↓
マタイ伝福音書

〈土屋 博〉

マダイ 真鯛 red sea bream 硬骨魚綱スズキ目タイ科マダイ

亜科に属する海水魚。図鑑以南の日本各地の沿
岸や東シナ海、南シナ海に分布する。体は楕円
形で強く側扁し、体高の高い典型的なタイ形で
ある。両顎前部には二、三対の犬歯があり、
側部には二列のやや大きい臼歯がある。全長一
センチ以上。体は鮮赤色で、腹部は淡紅色。体側に
小さい青緑色の点が不規則に数列散在する。尾び
れ後縁の黒いのがマダイの特徴。日本沿岸や大
陸棚の五〇〜二〇〇メートルの底層に生息し、多毛
類、甲殻類、棘皮動物、魚類な
どを好む肉食魚。春、水温が一
五度C以上になると産卵のため
接岸する。これをサクラダイと
よび美味である。一尾の雌は三
〇万粒以上産卵する。卵径一・
二ミリ、二〇度Cで二日で孵化
する。一本釣り、延縄、定置
網、底引網、こし網などで漁獲
される。漁獲の四〇％が東シナ
海の底引網でとられる。肉は白
くてよくしまり、刺身、吸い
物、塩焼き、煮つけなどで賞味
されるほか、でんぶなどに加工
される。最近マダイの養殖生産
量は年々増加し、一九七八年
(昭和五三)には一万吨を超え
た。近縁種にゴウシュウマダイ
があり、尾びれ後縁が同じく黒
い。↓タイ

マタイ受難曲

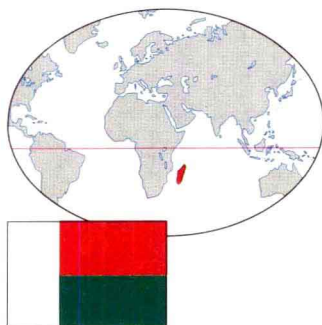
Mathäuspassion 新約聖書のうち「マタイ伝
福音書」のイエス・キリストの
受難物語によった、声楽と管弦

楽器のための音楽作品。数多くの傑作が残されて
いるが、カトリックではラッスス、ビクトリ
ア、プロテスタントではシュッツ、J・S・バ
ッハらの作品が名高い。とりわけバッハの『マ
タイ受難曲』(二部七八曲)は、『ヨハネ受難
曲』(二部初演)とともに、彼の宗教音楽の頂
点を示した作品として重要である。作曲された
のはバッハのライプツィヒ時代(一七二三年以
降)と推定され、一七二九年の聖金曜日(四月
一日)の演奏が確認されている。歌詞は「マ
タイ伝」第二六、第二七章にヘンリーチ(筆名
ピカンダー)の自由詩を加えたもので、かなり
多くの自作カンタータから音楽的転用がみられ
ながら、全体の構成の緊密さ、スケールの巨大
さには驚くべきものがある。初演後一〇〇年目
の一八二九年、メンデルスゾーンが復活演奏し
て、一九世紀におけるバッハ復活の端緒となっ
たことでも重要な作品。

マタイ伝福音書

「マタイ伝福音書」のなかの共観福音書の一つ。「マルコ
伝福音書」とイエスの語録資料(Q資料)とを

マダガスカル Madagascar



マダガスカル民主共和国

République Démocratique de Madagascar
Democratic Republic of Madagascar (英)

アフリカ大陸の南東部から、モザンビーク海
峡を隔てて三九二キロ東のインド洋にある島国。
正称マダガスカル民主共和国 République Dé
mocratique de Madagascar。世界第四の大島
マダガスカル島と沿岸の小島からなる。面積五
八万七〇四一平方キロ、人口九七三万一〇〇〇
(六四推計)。首都はアンタナナリボ(旧称タナ
ナリブ)。
〔自然・地誌〕マダガスカル島は南北に脊梁
山脈が走り、その東側は急傾斜でインド洋に落

面積	587 041km ²
人口	9 731 000人 (1984年推計)
人口密度	17人/km ² (1984年)
人口増加率	2.8% (1980-84年)
首都	アンタナナリボ
主要言語	マダガスカル語、フランス語
通貨	Malagasy Franc マダガスカル・フラン(FMG) 1 FMG=100 Centime (s)
国民総生産 (1人当り)	26億ドル (1984年) 270ドル (1984年)
貿易	輸出 3億2946万ドル (1982年) 輸入 4億3896万ドル (1982年)
宗教	キリスト教(42%)、イスラム教、 伝統宗教

利用しつつ、さらにマタイ特有の伝承を付け加
えることによって編集された文書。内容は、誕
生から宣教活動、受難を経て復活顕現に至るイ
エスの生涯を、マタイの視点に基づいて述べた
ものである。ここでは、『旧約聖書』からの引用
の仕方の特徴がみられ、イエスは『旧約聖書』
の預言を成就する者として描かれている。さ
らに、そのイエスは同時に、教えを通して共同
体を基礎づける者、教会の主でもある。福音書
記者マタイは使徒マタイとは別人で、ギリシア
語のできるユダヤ人キリスト教徒であったと考
えられる。執筆の時期と場所は、八〇〜一〇〇
年ごろパレスチナとシリアの境界地域とするの
が妥当であろう。

〈土屋 博〉

マダカアワビ giant abalone 軟体動物門腹足綱ミミ

ガイ科の巻き貝。北海道南部から九州に分布
し、潮間帯下から水深三〇メートルの岩礁にすむ。殻
長二〇センチ、殻径一七・五センチ、殻高七・五センチに達
し、卵円形で殻頂は後方に寄り、水孔は大きく
高い。肉は美味である。↓アワビ

含む行政、文化の中心地である。気候は、東部、北西部の雨量の多い熱帯性気候、西部、南部の乾燥地域気候、中央高地の温帯気候と変化に富んでいる。

〈林 晃史〉

〔動物相〕 アフリカ大陸からの距離は約四〇〇^キと比較的近いが、動物相は特異であり、動物地理学上はセイシェル諸島など隣接諸島とあわせて旧熱帯区のマダガスカル亜区として区分される。概して種類数は多くなく、東洋亜区（インド、東南アジア）よりはエチオピア亜区（アフリカ）に近いが、マダガスカル特産の動物群が多い。

哺乳類は翼手類と人間が持ち込んだとみなされるものを除くと、食虫類、霊長類、齧歯類、食肉類の四目だけが生息する。食虫目のテンレク科はマダガスカル特産で、ハリネズミに似た地上性の種、モグラに似た地中性の種、カワネズミに似た水生の種など約三〇種に適応放散している。霊長目は原猿類のキツネザル科、イントリ科、アイアイ科だけが生息し、齧歯目（キヌゲネズミ類）と食肉目（ジャコウネコ類）は固有のそれぞれ数属に分類される。

鳥類ではマダガスカルモズ類やジャコウコウ類が適応放散し、飛べない鳥のクイナモドキ科の特産種や絶滅した巨鳥のエピオルニスがよく知られている。その他の動物群にも特産種が多いが、淡水魚は一種も生息しない。

かつて、マダガスカルの特異な動物相を説明するため、古代にアフリカとインドを結ぶレムリア大陸があったと想定されたが、現在では否定されている。

《新妻昭夫》

〔植生〕全般に乾燥していてマメ科（ジャケツイバラ亜科）やバオバブ類（アダンソニア *Adansonia*）などの樹木の疎生するサバンナの面積が広い。南部は乾燥が厳しく、ユーフォルビア、パキボディウムなどの多肉植物と、刺植物の低木群落で占められる。島の東部寄りには南北に走る山地があり、ここではやや雨量が多く、密集した雨緑林がみられる。山頂部は硬葉樹の低木林、あるいはツツジ科のヒース状の群落となっている。種類相は、アフリカ中部、およびインド西部からサハラにかけられる地域と類縁をもつが、総種数の八五％が固有種で、ディグイエレア科など五つの固有の科がある。マダガスカルは植生は独立性が高く、セイシエル島などとともに旧熱帯植物体区系界のなかにマダガスカル区系区としてまとめられる。

（大場達之）

〔歴史〕 マダガスカル原住民は東南アジア出身で、アフリカ大陸の東海岸に移住したのち、一〇世紀ごろマダガスカル島に移住したといわれる。そして一七世紀初頭、中央高地にアンドリアナ王国（後のメリナ王国）を建設した。王国はアンドリアナ王家と貴族階級（ホバ）、奴隷（アンデボ）からなる中央集権的王国であり、王都はアンタナナリボに置かれた。ヨーロッパ人の渡来は一五〇〇年のポルトガル人が最初で、オランダ、イギリス、フランスがこれに次いだ。一九世紀初頭にイギリスとフランスの宣教師による布教活動が始まり、一八六二年に両国の領事館が置かれた。六九年ラナバロナ二世がキリスト教（プロテスタント）に改宗し国教として以降、キリスト教は全土に広がった。アフリカ分割を決めた一八八五年のベルリン会議の結果フランス領となったが、カトリック国フランスの支配に対しプロテスタントのマダガスカル人は反抗し、九五年フランスは武力を用いて制圧した。しかし植民地化以後もマダガスカル人の反抗は続いた。一八九六年のメナムバの反乱、一九〇四年の反乱が鎮圧されたのち、一三年には民族運動組織「ピ・バト・サケリカ」（「鉄と石」の意）を結成しフランスの支配に抵抗した。

第二次世界大戦中に植民地政府がビシール政府を支持したため、一九四二年イギリス軍は日本軍の侵攻に備えることを口実にマダガスカルを占領した。翌四三年イギリスはマダガスカルをドゴールの自由フランス政府に引き渡した。四七年三月、フランス支配に対しマダガスカル革命民主運動（ムカ結成、党首ラセタ）の指導による大規模な抵抗が起こり、多数の犠牲者を出して鎮圧された。五六年フランスは基本法を制定して植民地に対し大幅な自治を認めた。同年、プチアナは社会民主党（PSD）を結成し、フランス議会のマダガスカル代表議員となった。五八年フランスの第五共和政移行とともにドゴールがフランス共同体構想を打ち出したため、同年一〇月マダガスカルは同共同体内の自治国となり、六〇年六月二六日フランスから正式に独立してチラナナが初代大統領となった。

独立後、チラナナは親西欧（とくにフランス）政策をとった。一九六一年には旧フランス領一か国の元首がアンタナナリボに集まって経済、社会面での協力を目的とするアフリカ・マダガスカル連合（のちアフリカ・マダガスカル

ル共同機構(OCAM)を結成するのに重要な役割を果たした。さらに人種主義の南アフリカ共和国とも友好関係を保った。七二年五月、チラナナの政策に反対する学生のストライキに対する弾圧を契機に、軍隊がクーデターを起こし、マナンツォア少将が政権を握った。

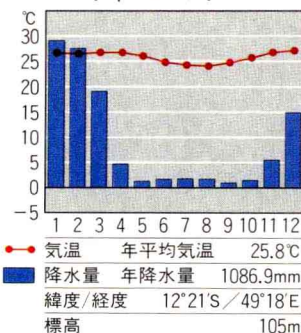
「政治・外交」 ラマナンツォアは国家資本主義を標榜し、議会にかわって人民国家開発評議会（ＣＮＰＤ）を置いた。同評議会は一九七三年フランス軍の撤退を要求し、南アフリカ共和国との関係を断ち、かわりにソ連、東欧と外交関係をも樹立した。同時にＯＣＡＭおよびフラン圏からも脱退した。七五年二月軍内部の権力抗争によってラチマンドラバ大佐がラマナンツォアにかわって政権を掌握したが、六日後に暗殺され、アンドリアマハヅ將軍が全権を掌握して軍評議会を設置した。同年六月軍評議会は国家元首として新たにラチラカ元外相を任命した。ラチラカは同年一二月新憲法を制定するとともに軍評議会を解散し、かわって以下の諸機構を設置した。①ラチラカを議長とする最高革命評議会、②行政府の最高機関として首相を長とする政府、③立法院として人民国民議会、④司法府として立憲最高裁判所、⑤国防・社会経済開発計画諮問機関として軍事開発委員会の五つである。さらに国家建設の方向として社会主義路線を主唱し、その基盤は政府の奨励する農村共同体（フオコノローナ）にあるとした。

政党としては一九七六年二月に革命防衛国民戦線(FNDR)が結成された。このFNDRには、それ以前の政党であるマダガスカル革命前衛党(ARÉMA、党首ラチラカ)のほか七党が含まれている。外交面ではラチラカは共産圏よりのラマンツォア路線を継承したが、七八年九月のフランス公式訪問のにも対仏関係は修復された。そのほか国連、アフリカ統一機構にも加盟し、ECとの第二次ロメ協定にも調印した。軍隊は、陸軍約二万人、海軍六〇〇人、空軍五〇〇人で、空軍は七八年以降ソ連と北朝鮮の援助を受け、ミグ21型戦闘機八機を有する。

〔経済・産業〕マダガスカルは農業立国であり、国内総生産に占める農業の割合は三九%、全就業人口の八三%が農業に従事している(九五)。主要農産物は米、サトウキビ、コーヒ、バナナ、チョウジ、コショウ、綿花、サイザル麻、豆類、ラッカセイ、タバコである。さらに独立以降、東部海岸でパーム油と茶の栽培が進

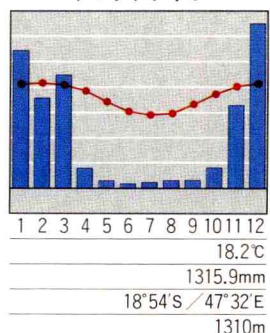
マダガスカル各地の気象

ディエゴ・スアレス

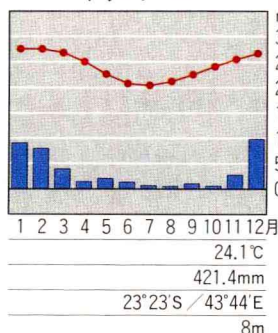


1988年版「理科年表」による

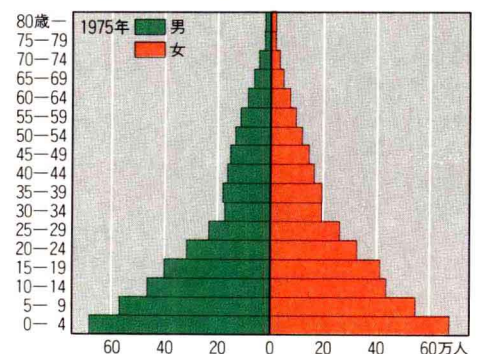
アンタナナリボ



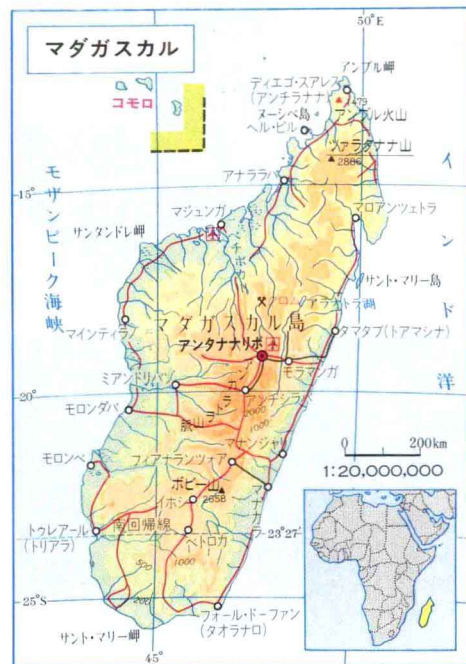
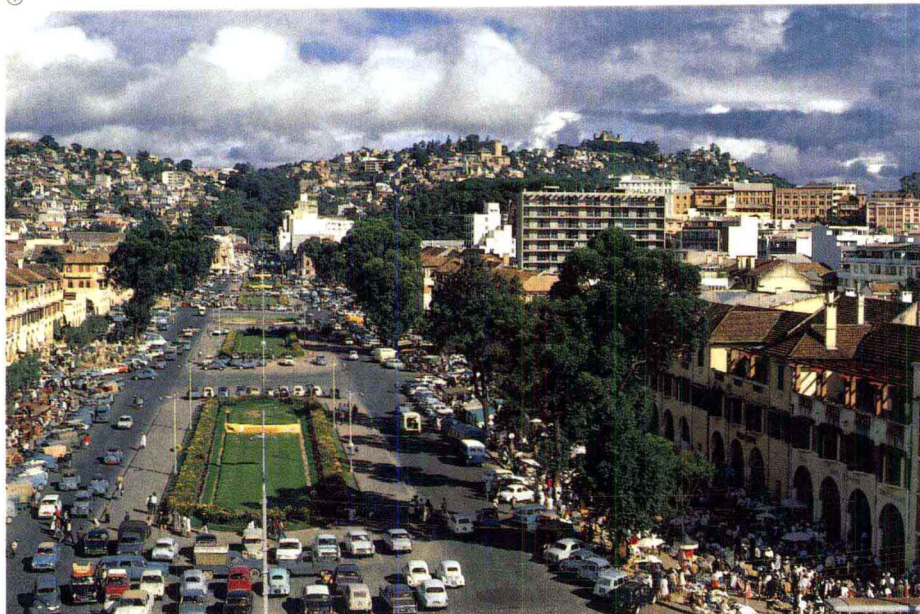
トウレオール



年齡別人口構成



1984年『世界人口年鑑』による



- ①首都アンタナナリボの中心街インデペンデンス通り。市街は19世紀末からフランス人の都市計画に基づいて建設された
- ②コブウシの放牧。ウシは各家庭の財産として飼われ、人口1人当りの頭数は世界一である
- ③稲作は南部を除く各地で行われ、アフリカ東岸では珍しく、米が主食となっている

められている。フランス人によって経営されていたコビーやサトウキビのプランテーションは一九七七年国有化された。

鉱産資源も豊富で、主要鉱産物として黒鉛、雲母、クロム、ボーキサイト、ウランなどのほかアメシスト、ガーネットなどの宝石も産出する。ただしこれらの鉱産物採掘はほとんど外資系企業により行われている。近年石油探査がアメリカ、フランス、イタリアによって行われている。また最近北西部のソアラで鉄鉱脈が発見された。

カル航空はおもに国内各地を結んでいる。独立以降現在まで四次にわたる開発五か年計画を実施しており、第一次（一九四〇～四六）は通信、農業に力点が置かれたが、第二次（一九四七～五三）以降、社会主義建設を目標として基幹産業の国有化、アフリカ人を進めていく。しかし、第一次石油危機以降の石油輸入額の増大、一九七〇年代末の農業危機による食糧輸入の増大によって財政的には苦境にあり、IMFなどの国際金融機関、二国間援助に依存している。【社会・文化】約一〇〇〇万の人口のうちヨ

主要輸出品は農・鉱産物の一次産品で、機械、輸送器機、工業品、食糧、石油が輸入の大半を占める。貿易相手国はフランス、アメリカ、西ドイツ、日本、サウジアラビア、インドネシアなど、恒常的な入超で赤字が続いている。

交通は首都を中心とする脊梁山脈部と北西海岸部を中心に全長四万^キの道路があるが、東海岸部は未発達である。現在道路延長計画に世界銀行、中国、クウェート、アフリカ開発銀行が援助している。鉄道はタマタブーアンタナナリボーアンチシラハ間とフィアナランツォアーマナカラ間のものが主要路線で、西海岸へ通するものはない。主要港は東海岸のタマタブである。国際航空便はフランス航空、イタリア航空で、マダガス

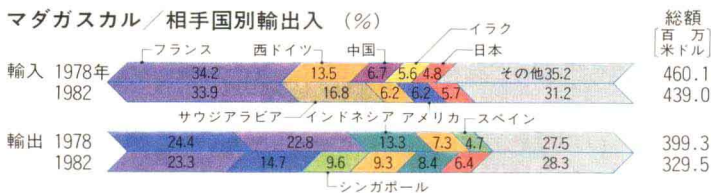
の発達で、工業製品は国外からの輸入に依存している。わずかにある工業は農産物と畜産物である。その他の工業にセメント、石油精製、製靴、マッチ、化学、石油加工、自動車組立て、トランジスタ・ラジオ組立てなどがあり、そのほとんどは首都アンタナリボのほか、アンチシラバ、マジュンガ、ディエゴ・スアレス(アンチラナナ)、タマタブ(トアマシナ)に集中している。カナダ、イラク、フランスの協力でアンデカレラ水力発電所が建設中である。

一八校にすぎない。唯一の大学は首都にあり法・文・工学部あわせて学生数は約六〇〇〇〇人である。

メリナ王朝のラナバロナ二世がキリスト教に改宗して以来プロテスタントが全土に広まったが、その後フランスの植民地化を通してカトリックも広がり、現在カトリック教徒は約三二〇万人（教会数五〇〇〇）、プロテスタント教徒一九〇万人（教会数五一六〇）である。マダガスカルはアフリカ大陸南部の島でありながら、ほかのブラック・アフリカ諸国と異なり、マレー・

ロッパ人(主としてフランス人)三万人、インド人一万六〇〇〇人、中国人九〇〇〇人を含む。インド人、中国人はおもに商業に従事している。マレー・ポリネシア系のマダガスカル語が公用語となっているが、フランス語、英語も学校で教えられている。一人当りの国民総生産は二七〇^(一九六四)と低い。経済活動人口の八〇%以上は農業に従事しており、サービス産業就業者が一〇%、工業労働者はわずか四%である。

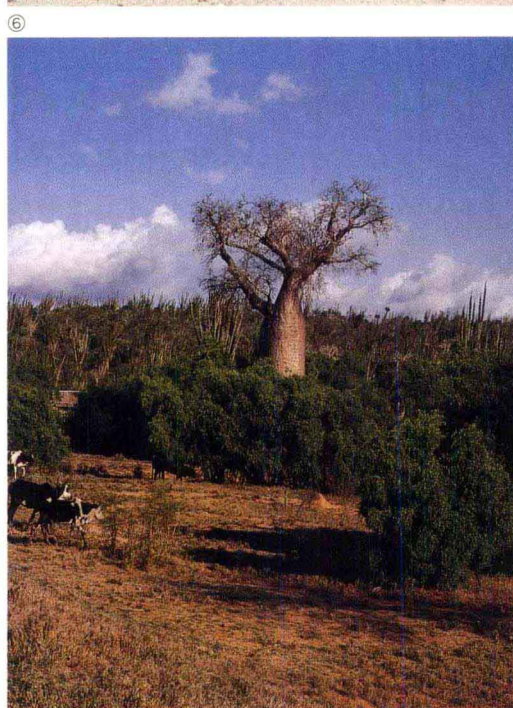
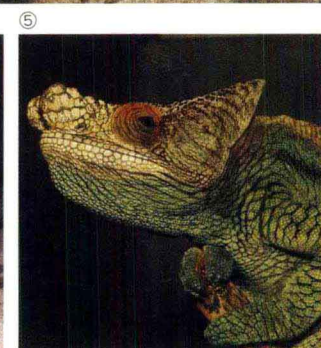
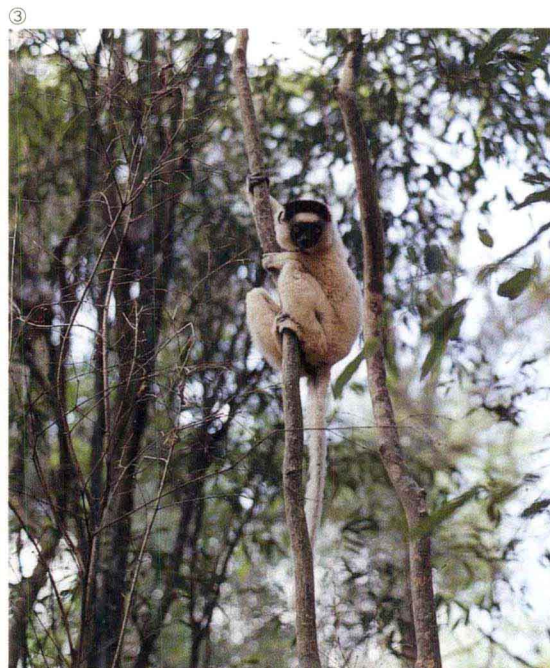
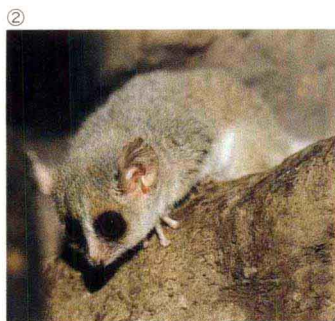
教育制度はフランス式で、六〜一四歳が小学生で義務教育にあたり、小学校は公立・私立含めて六〇五四校、生徒数は約一一万八〇〇〇人。中学校は五〇八^{額万ドル}校、高等学校はわずか60.1^{39.0}校、高等学校はわずか99.3^{29.5}校、高等学校はわずか



マダガスカル

動物

- ①シマテンレク (テンレク科)
- ②ネズミキツネザル (キツネザル科)
- ③ペローシファカ (インドリ科)
- ④フォッサ (ジャコウネコ科)
- ⑤バーサクカメレオン (カメレオン科)



植物

- ⑥パオバブとアルオウディア (ディディエラ科) の林。手前はコブシ
- ⑦アルオウディア・プロケラ (ディディエラ科)
- ⑧パキポディウムと花をつけたユーフォルビアの一種、ハナキリン
- ⑨草原の石灰岩上にのみ見られるアロエの一種

マダガスカル・ジャスミン *Madagascar jacinth* (ジャスミン科) *Stephanotis floribunda* Brongn. ガガイモ科シタキノウ属 (ステファノテイス) の常緑藤本 (つる植物)。マダガスカル原産で、花にジャスミン様の芳香があるのでこの名があるが、モクセイ科オウバイ属のジャスミンとはまったくの別種である。葉は対生し、卵状楕円形、暗緑色の多肉革質で、長さ七〜一〇センチ。花は白色で、長さ四〜五センチの高弁形。春から秋、散形状の集散花序に六〜八花を開く。つる性を生かして鉢植えの行灯仕立てにする。八度C以上を保ち、冬は灌水を抑える。繁殖は挿木による。

〔加藤 泰〕

④ 外務省監修 『世界各国便覧叢書47 マダガスカル共和国・モーリシアス』 (一九七三・日本国際問題研究所)

ポリネシア系の独特の人種構成と稲作に代表される独自の文化をもっている。《林 晃史》
〔住民〕マダガスカルには多くの民族が住んでいて、各方言に分かれるが、マダガスカル(マラガシー)語とよびうる一つの共通言語を話す。これはオーストロネシア語族に分類され、文化的にも東南アジアとの関連が顕著である。身体的にも東南アジアとのつながりが認められ、とくに中部および東部の住民はインドネシアの諸民族に似ている。サカラバ族、ベゾ族、アンタンドロイ族などは東南アジア系であるが、ウシを重視し王族祖先崇拝の儀礼をもつなど東アフリカの文化の影響がある。一方、黒人系のタナラ族やベツィミサラカ族の文化はアフリカとのつながりが認められない。
マダガスカルの諸民族は居住地域および生態環境の面から三つの集団に大別することができる。西海岸と南部の諸民族は乾燥した牧草地に住んでいて農耕と牧畜の混合経済を営む。代表はサカラバ族で、一五世紀以降強大な王国を建設した。中部高原にはメリナ族とベツィロ族が住んでおり、灌漑稲作を行う。墓が生活のなかで重要な位置を占め家庭の象徴でもある。東海岸の森林地帯に住む諸民族は陸稲やバナナ、トウモロコシを栽培し漁業も行う。この地域ではタナラ族がよく知られているが、タナラというのは「森の人」という意味で多くの民族集団を含む。マダガスカル全域でイスラム教アラブとスワヒリ文化の影響が強い。アラブ人は八世紀ころから交易場を設立していたと考えられる。

④ 外務省監修 『世界各国便覧叢書47 マダガスカル共和国・モーリシアス』 (一九七三・日本国際問題研究所)

マタガルパ Matagalpa 中央アメリカ、ニカラグア北西部高地の中心都市。マタガルパ州の州都。マナグアの北北東一〇〇^{km}に位置する。人口三万六九八三（一九六五）。同国の二大コーヒー産地の一つを後背地にもち、産物を集散する。一九世紀後半ドイツ人、アメリカ人の入植に伴い建設された。西方をパン・アメリカン・ハイウェイが通る。

またぎ クマ、カモシカなど大形山獣の集団狩を業としてきた東北山村の狩人の称。おおむね山奥に独自の集落生活を営み、農耕、山稼ぎにも従事したが、冬から春にかけては深山に分け入り、仮泊の生活を続けながら狩猟に専念してきた。スカリとよぶ頭目（指揮者）のもとに数名の猟仲間（マタギ組）がつくられていて、各自伝統の手法で集団猟に従事するが、「巻き山」（巻き狩り）と「穴捕り」（クマ）が主で、前者は谷を巡って山獣を追いつき、尾根筋でしとめる猟法、後者は春先「穴」もりのクマを目ざす特異な猟法である。マタギへの鉄砲の導入は古く、古式の銃丸の製法なども踏襲されてきたが、一方、古風な手槍（ヤリ、タテ）なども併用された。しかし矢矢の古い形はほとんど残っていない。深雪の山間行動に耐えるため、マタギの狩り支度には特異なくふうが加えられ、毛衣や足こしらえ、あるいは「長柄」という雪中徒歩の雪べらなど、注目すべきものが多い。マタギ猟には山の神信仰に根ざす禁忌伝承が多く、「山入り」には厳しい「浄め」の作法があり、山中生活では「山こぼ」という特異の忌みこぼ（水・ワッカ、米飯・クサノミなど）を用いた。獲物の解体処理にも「毛祭り、毛ボガイ」など特異な儀礼があり、また獲



マダガスカル・ジャスミン

物の配分方式にもいろいろな「得点」の決まりがあった（致命弾の射手の特殊配分などについてである）。

「マタギ組」には「山立根本巻」という伝書が多く伝えられていて、「スカリ」はそれを保存し、古くは山中生活にも携えて行く例であった。その内容はマタギ猟の由来を示し、その職祖が山の神の恩寵により深山における狩猟かせぎの特権を得たというものである。日光派、高野派の二種があるが、いずれも山の神のつかさどる深山幽谷に自在の狩猟を行い、殺生を事とすることを山の神から特免されたという「職の由緒」を示すところで、それがのちに修験の徒の関与で修飾された態のものである。「無主の地」における自在の狩猟を保証するには、山の神信仰にちなむこうした職祖伝承で久しく事足りたのである。

④ 後藤俊夫著『マタギ』（一九六三・秋田書房）▽太田雄治著『マタギ——消えゆく山人の記録』（一九九一・翠楊社・パンセ）

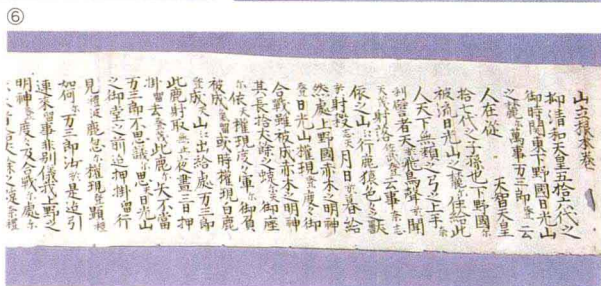
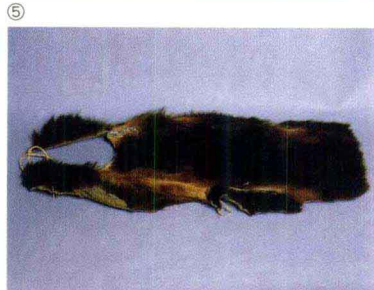
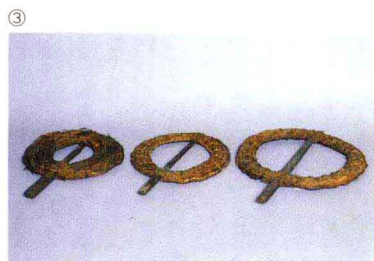
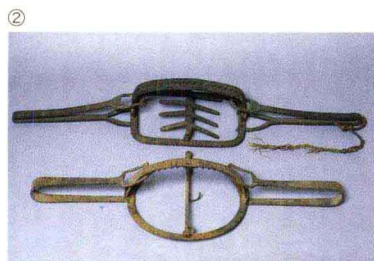
マダケ 「真竹」⑤ *Phyllostachys bambusoides* Sieb. et Zucc. イネ科のタケ・ササ類。タケノコがやや苦味があるのでニガダケ（苦竹）ともいう。稈は高さ二〇m、径一〇cmに達し、稈面は濃緑色で、節に隆起した二環がある。全体がハチクによく似るが、ハチクの稈面は帯白色または灰緑色である。タケノコの皮もハチクとは違い、平滑で、黒い斑紋がある。葉は広披針形で長さ約一〇cm、肩毛（葉鞘の上縁の毛）は顕著で開出する。中国原産。名は、本物の竹の意味である。稈は粘り気と弾性が強く、用途が広い。

マダケ属は地下茎は長く、稈は散開して立ち、丸い節間の一側が平坦または溝となり、枝は二本ずつ出で、花には三本の雄しべがある。マダケ、モウソウチク、ハチク、ホテイチクなどの種がある。↓ハチク ⑥ レタケ（鈴木貞雄）

マダコ 「真蛸」 *common octopus* (⑦) *Octopus vulgaris* 軟体動物門頭足綱タコ科のタコ。市場でもっとも普通にみられるタコで、このほかユウラシア、アメリカ大陸、オーストラリアなどに分布している。全長六〇〜一〇〇cm。体重三・五kgに達する。体表には大小のいぼがあって、網目状に暗色の筋がある。目の周囲に棘状の突起をもつ。各腕の長さはほぼ等しく、吸盤が七〇〜八〇個ずつ二列に配列されている。雄の右第三腕が交接腕で、左第三腕より

わずかに短い。この腕の先端は扁平な三角形の肉片に変形していて、生きているときはつねに巻き込まれている。マダコは水温一五度C以上ならいつでも卵を産むが、多くは春から夏に岩棚の下や石の陰に卵塊を産み付ける。一つの卵は長径二・五mm、短径〇・九mmぐらいで、糸状の柄があり、それが絡み合って房状になり、「海藤花」の名でよばれる。産卵後三〜四週間て孵化する。短い浮遊期間のち底生生活に入る。

マダコは多く岩礁性海岸にすみ、岩穴やクレパスをすみかとして強い縄張りをするが、一方、沖合いの砂泥底を回遊する群れがある。これを「通りダコ」とか「渡りダコ」といい、前者は主としてたこ漁業によって漁獲されるのに対し、後者は底引漁業の対象となっている。おもな食餌はカニ類などの甲殻類で、二枚貝なども好み、甲殻類漁業資源や、養貝業に害を与える。マダコが食用にされるのはアジアと南ヨ



またぎ

- ① 熊狩り。現在も集団狩猟技術が伝承されている。雪の残る春先に穴を出て歩くクマを、包圍して所定の場所に追い込み撃ち取る巻き狩りや、冬の間業もりしているクマを、穴口におびき出してしとめる穴捕りがある。秋田県の鳥海山麓。1977年（昭和52）5月
- ② クマトリバサミ。クマの通り道にしかける狩猟用具
- ③ ワラダ。空中に投げ、タカと錯覚して穴に逃げ込む野ウサギをとらえるための道具
- ④ マタギボッチ。ウマのしっぽを白い糸で編んだ帽子
- ⑤ キガワ（熊皮）。カモシカの毛皮が最上とされる防寒衣

⑥ 山立根本巻。マタギの統率者相伝の秘巻で、マタギの縁起と秘法が記され、狩猟儀礼に欠かせぬものである。②〜⑥とも岩手 碧祥寺博物館



マタタビ (左)果実 (右)雄花

ーロッパ、中央アメリカの一部にすぎない。⑤
レタコ

又小作 またこさく 小作人自らは耕作せず、

小作地をさらに他人に貸し付けて耕作させることをいい、主として明治以降の慣行である。仲介人は仲小作人、請負小作人などと呼ばれ、彼は小作地を数人の又小作人に分割・転貸して賃金を収め、そのなかから地主に納める小作料を差し引いた差額を取得た。当時、普通小作料そのものが高額であったため、又小作人の支払う小作料は、その地方の普通小作料を大きく上回るものではなかった。したがって、又小作は、強固な小作権を有する永小作地など、通常の小作地に比べて相対的に小作料の低いところで見られる場合が多かった。また移民不足に悩まされ、一部小作料の永久免除など小作人引き留め策を図った、北海道の小作制農場でも、生産力の発展とともに、又小作制の展開がみられた。

股ずれ またずれ 股にできた間擦疹の俗称

で、肥満者あるいは糖尿病患者におきやすい。股間の皮膚は歩行時などに摩擦を受けやすく、さらに発汗を伴って一面に赤くなり、表面がじくじくしてきて軽度の湿潤がみられるようになる。↓間擦疹

⑥伊崎正勝

マタタビ

④ *Actinidia polygama* (Sieb.

et Zucc.) Maxim. マタタビ科の落葉藤本(つる植物)。茎には白い髄が詰まる。葉は互生し、広卵形または楕円形で長さ四〜一五センチ、基部は円形。若いつるの先の葉は白色となり、目だつ。雌雄異株であるが両性花もあり、初夏、径約二センチの白色花を腋生する。雄花は一〜三個が集散花序をなし、多数の雄しべと退化した一本の雌しべがある。雌花は単生し、中央に花柱が多数に裂けた雌しべがあり、周りには短く退化した雄しべがある。果実は長楕円形の液果で長さ約三センチ、先はくちばし状にとがり、八〜九月に黄色に熟す。種子は多数。日本全土の低山に生え、千島、樺太(サハリン)、および朝鮮半島に分布する。名はアイヌ語のマタムブに由来する。果実は塩漬けて酒肴に、若芽も食用とする。

マタタビ属は東アジアの亜熱帯から温帯に約四〇種分布する。よく知られるキウイフルーツも本属の植物である。

⑦杉山明子

【薬用】果実にタマバエの一種 *Asphondylia matatabi* Yusa et Kunawaza が寄生して虫こぶをつくる。漢方ではこれを木天蓼と称し、漢方薬および民間薬とし、体を温め、腹痛や腰痛に用いる。また、煎じたり、粉末にして内服したり、薬酒(天蓼酒と称する)をつくって服用する。植物体全体にはマタタビラクトン、アクチニジンなどの成分を含み、ネコの薬として費用される。

⑧長沢元夫

【文化史】果実は縄文人も食用したようで、福井県鳥浜貝塚の前期、青森県亀ヶ岡遺跡の中期の地層から種子が出土している。『本草和名』(九八)に和多々比、『延喜式』(九七)に和太太備の名で出ている。貝原益軒は『菜譜』(二七四)で、葉も実も食べられ、好事の者が葉を取り去り、花を花瓶に挿すと述べている。『花壇地錦抄』には二、八月(旧曆)植え替え、三、四月に挿木で殖やすと書かれ、当時栽培されていたことがわかる。『広益地錦抄』(七五)では「花形梅花に似て白し、珍貴すべし」の記述とともに、ネコが好むので、厳しく囲わないと、集まって食い切り、木を枯らすと、注意を促している。ネコをひきつける成分のマタタビラクトンはモノテルペン系のラクトンで、イリドミルメシン、ジヒドロネペタラクトンなどの混合物である。同じくモノテルペン系のアルカロイドのアクチニジンもネコに麻痺効果がある。モ

ノテルペン系のアルコールであるマタタビオールは昆虫のクサカゲロウの雄を誘引する。

中国では古くから薬用とし、『唐本草』は、瘰癧(血塊)、積聚(血液、粘液、胆汁などによる腹のしこり)、風勞(咳と汗を伴う感冒)、虚冷(正常でない冷え)に、茎を細かく切って醸して飲む用法をあげている。⑨湯浅浩史

マタタビ科

⑩ Actinidiaceae

双子葉植物、離弁花類。高木または藤本(つる植物)。葉は単葉で互生し、托葉はない。花は集散花序をつくるか単生で腋生し、放射相称。両性花と単性花とあり、雌雄異株または単性花と両性花が同一株にある。萼片、花弁ともに五枚。雄しべは多数か一〇本で、葯の背面に花糸が丁字状につく。花柱は離生または合生する。子房は上位で三〜五室または多数の室に分かれ、胚珠は中軸胎座に数個または多数つく。果実は液果、まれに蒴果で、種子の胚乳は豊富である。熱帯から亜熱帯に三属約三〇〇種分布し、日本にはマタタビ属とタカサゴシラタマ属がある。

⑪杉山明子

【マダーチ Madách Imre (一八三三〜一八九一) ハンガリーの劇作家。地方貴族の出身。ブダペストで法律を学び、のち故郷に戻り、政界で活躍。学生のころから詩や戯曲を書き、地方政界の保守性を告発する執筆活動にも従事した。進歩的貴族の陣営に加わったが、独立戦争での兄弟の不運や、自身の獄中生活から端を発した結婚生活の崩壊により、ペシミズムにとらわれ、隠遁生活に入った。哲学的詩劇『人間の悲劇』(一九〇二)は、天地創造以来の人間の歴史をテーマとしている。

⑫岩崎悦子

【マタチチ Lovro von Matkic (一八九一〜一九五五) ユーゴスラビアの指揮者。ウィーン少年合唱団を経てウィーン音楽大学に学ぶ。一九一九年ドイツでデビューしたが、三八年には故国に帰って活動、同国の代表的な指揮者となる。第二次世界大戦後、ウィーン、ミュンヘン、ミラノなど各地の歌劇場に客演して名をあげ、五六〜五八年ドレスデン国立歌劇場、六一〜六六年フランクフルト歌劇場の音楽総監督となる。その後ザグレブ・フィルハーモニーとモンテ・カルロ国立歌劇場の音楽監督を務めたが、七八年以後は健康優れずフリーで活動、ザグレブに没した。六五年(昭和四〇)スラブ歌劇団と初来日してNHK交響楽団と共演。その後もしばしば来日してN響に客演し、同団の名

誉指揮者となった。重厚で説得力のある芸風で、ベートーベン、ワーグナー、ブルックナーに真価を発揮した。

⑬岩井宏之

【マタディ Matadi アフリカ中部、ザイル西部の都市。コンゴ川(ザイル川)河口から約一六〇キロ上流東岸に位置する河港都市である。人口一六万二九六六(一九七〇)。同国の主要

港で外洋船の入航が可能で、首都キンシャサの外港となっている。コンゴ川はここから上流は急流があつて航行不能のため、キンシャサまで鉄道が通じる。港からはコヒー、カカオ、パーム核などを積み出すほか、冷凍設備をもち漁港の役割も果たしている。下流のアンゴアンゴは石油基地で、ここからパイプラインがキンシャサまで延びている。

⑭赤阪賢

【マターナル・デプリーション 母と子関係】

【マダニ(真蜱) tick 節足動物門クモ形綱ダニ目マダニ亜目に含まれる大形吸血性ダニの総称。マダニ二亜目は、マダニ科 Ixodidae とヒメダニ科 Argasidae およびアフリカ産の特殊な一科で構成されるが、日本ではヒメダニ科のみをさすことが多い(この場合の英名は hard tick)。マダニ科のものは気門が第四脚後方にあり、それより後ろの後側縁は、一二本の浅い切れ込みによって花彩とよばれる縁どりを形成するが、属によってはこれを欠く。体長二〜七ミリ。褐色を基調としたものが多く、体前部に口器と触肢をもつ。鋸状の口下片が口器中央に突出し、長期間にわたる吸血を確保する構造となっている。脚は四対で体腹面の前半にある。卵、幼虫(脚は三対)、若虫、成虫(脚はともに四対)の発育期があり、卵以外の各期に一度ずつ宿主に取りついて吸血し、満腹すると地上に落ちて脱皮する。ウシマダニ属では幼虫から成虫まで宿主体上にとどまって脱皮する。雌成虫は一度吸血すると一週間以上、あるものは一か月以上も吸血を続け、満腹するまでは容易にとれず、無理に引き抜くとちぎれて口器の一部が皮膚に残る。雌は満腹すると著しく膨大し、コヒー豆大になるが、雄は背面を硬い背甲板で覆われるため、大きくならない。満腹した雌成虫は数百個の卵を地上に産んで死ぬ。日本の種類はほとんどマダニ二属 Ixodes とチマダニ二属 Haemaphysalis に属するが、キラマダニ二属 Amblyomma、ウシマダニ二属 Bo-

ophis、カクマダニ属 *Dermacentor*、コイタマダニ属 *Rhipicephalus* の四属に属する若干種を加えると、約四〇種が生息している。吸血によって貧血や皮膚炎をおこすのみか、アメリカではロッキーマウンテン熱、ソ連および各地でウイルス性脳炎や、家畜のピロプラズマ症など各種の病原体を媒介する。日本では東北地方のキチマダニとヤマトマダニが野兎病菌に汚染されていることがあり、注意を要する。日本種でヒトを刺すものには、ヤマトマダニ、シニツエマダニ、タネガタマダニ、タカサゴキラマダニなど一種が知られている。〈山口 昇〉

マタニティ・ドレス maternity dress
妊産婦用のドレス。出産前の母体の変化にあわせて胸回り、ウエスト回りが自由に調整できるように作られていたり、産後の授乳に便利になる。ワンピース、ジャンパー・スカートなどのほかワンピース形式の上衣とスカートまたはズボンを組み合わせたものなどがある。いずれも母体を保護し、腹部を締め付けず、着脱が容易なように、タックやギャザー、切替え線などを使った緩やかなスタイルのものである。素材は、保温性があり、衛生的なものが好ましい。最近では、流行を取り入れたファッショナブルなものもデザインされている。〈深井晃子〉

マータバ Mathaba 生没年不詳。一三五〇年ごろの、インド、ビジャナガル王朝の哲人宰相。多くの著作のなかでも『全哲学綱要』は諸哲学の通観的研究としてとくに名高い。この書では、自らの立場、不二元論派ベダーンタ哲学を究極に、そしてこれとともに対照的な思想である唯物論を対極に置き、その他の一四の思想体系を両極との親疎関係に従って配列、各体系をそれぞれの典籍に基づいて客観的に叙述している。ベータ注釈者として有名なサーヤナとは兄弟であるとされる。〈倉田治夫〉

マタバヌ火山 — かせん Matavunu 南太平洋中部、西サモアのサバイ島北東部にあるアルカリ橄欖石玄武岩の成層火山。標高七〇八メートル（六五〇メートルとする記録もある）。一九〇五年に山頂や山腹（割れ目）で大噴火し、溶岩流は諸村落や農地を破壊、一二の先の海に達し、津波も発生した。噴火活動は一九一一年に終息。〈諏訪 彰〉

マタハリ Mata Hari (ハタ・ハル) 第一次世界大戦中にドイツのスパイとして活躍し

た女性。マタハリ（マレーに特有な呼称で太陽とか曙光という意味）はインド舞踊のダンサーとしてデビューしたときの芸名で、本名はマルガレータ・ゲールトライダ・ゼレ。オランダ人。天性の美貌とヌードに近い踊りで艶名をかせ、大戦前夜のパリで一世を風靡した。フランスの貴族社会、外務省、軍当局、各国大使館首脳らの共通の愛人として、パリの上流社会に自由に入りできたので、大戦が始まるや、ドイツにねらわれ、そのスパイ網のなかに組み込まれた。一九一七年二月フランス当局に逮捕され、同年一〇月銃殺された。彼女のスパイ活動は素人の域を出なかったのに、軍法会議が死刑の判決を下したのは、同じ年フランス陸軍内で暴動があり、国民の目をそらす必要からという。〈林 茂夫〉

M・グリッランディ 著、秋本典子訳『マタハリ』（九六・中央公論社）

真玉（町） またまぎ 大分県北東部、西国東郡にある町。一九五五年（昭和三〇）町制施行。国東半島西部の真玉川・白野川両放射谷を主として、周防灘に臨む。国東半島海岸を巡る国道二一三号が通じる。放射谷の米作と、放射山稜緩斜面や海岸段丘面の野菜・タバコ・ミカン作、干拓地の野菜（ネギ・スイカ）作が主産業。遠浅海岸には貝類・ノリを産する。棒大師堂は春秋の大祭にぎわう。無動寺、応暦寺の木造仏や福真磨崖仏など文化財が多く、城前には温泉がある。人口四六七八。〈兼子俊一〉
④「真玉町誌」（九六・真玉町）
④二万五千分の一地形図「香々地」「両子山」「浜」「豊後高田」



マタマタ

マタマタ matamata ④ *Chelus fimbriatus* 爬虫綱カメ目ヘビクビガメ科のカメ。一

属一種で、ベネズエラ、ギアナ、ブラジル北部・中部に分布し、同科のなかでは大形で甲長約四〇センチに達する。マタマタという風変わりな英名は「皮膚」を意味する現地語に由来し、形態的にもカメではもっとも奇妙な種として知られる。甲は扁平で、背甲の各甲板が山形に隆起し、縁甲板は後部で鋸歯状にとがる。腹甲は幅が狭い。頭部は三角形で平たく、吻部は細い管状に伸び鼻孔が開く。口は大きい、あごの力は弱い。頸部は長く幅広、皮膚に多くの房状の飾りがある。よほど河川の底に横たわり、餌のようにみえる飾りに誘われて近寄る魚を、大きな口で水とともに飲み込む。日中は物陰に隠れているが、甲には藻類が付着して水底の石のようにみえる。〈松井孝爾〉

マダムと女房 — によろぼう 日本映画。一九三一年（昭和六）作品。松竹蒲田撮影所の土橋武夫・晴夫兄弟によるフィルム式トーキー作品であり、日本でオール・トーキーの成功作品として初めて評価された。脚本を北村小松、ギャグを伏見晃、監督を五所平之助が担当。ナセンス小市民映画の系譜を引き、郊外に新居をみつけた若夫婦（渡辺篤と田中絹代）の数日を明るくユーモラスに描く。日常の会話と生活の音とを生かし、また、隣の音楽家グループ（マダムが伊達里子）のモダンな生活とジャズを対比効果的に取り入れた。「スピード時代」と題した主題歌も挿入している。市民生活の平和をうたい、モダンリズムへのあこがれを漂わせる佳作。④日本映画 ④千葉伸夫

マタモロス Matamoros メキシコ東部、タマウリパス州北東部の河港都市。人口二二万八四四〇（二〇〇〇）。メキシコ市の北北東一〇〇六キロに位置する最果ての町で、リオ・グランデ川を挟んで、対岸はアメリカのテキサス州ブラウンズビルである。周辺は灌漑農業が発達し、その中心をなす商業都市でテキサスとの取引が多い。なお、同国南部プエブラ州西部のマタモロスは、イスカラ・デ・マタモロスの略称で、サトウキビ地帯の中心地である。〈高木秀樹〉

マダラ 「真鱈」 Pacific cod ④ *Gadus macrocephalus* 硬骨魚綱タラ目タラ科に属する海水魚。単にタラともよばれる。日本海では山陰地方以北および黄海から沿海州に分布し、太平洋岸では本州中部地方以北、オホーツク海、

ベーリング海を経てアメリカのオレゴン州に及んでいる。体は長く、前半部は肥大するが後半は細く、全体にやや側扁する。頭は大きく、吻は円鈍。上顎は下顎よりも突出し、後者の先端には眼径よりも長い一本のひげがある。背びれは三基、臀びれは二基で、腹びれは胸びれより前方にある。尾びれの後縁は垂直かわずかくぼむ。鱗は円鱗で非常に小さい。体は淡灰褐色で、腹側は白い。背面と体側に多くの不定形の暗色斑や流状斑紋がある。各ひれの縁辺は白く縁どられる。体長約一二〇センチに達する。

水深四五〜四五〇メートルの海底に生息するが、北方ほど生息水深が浅い。スケウタラよりも底生性が強く、あまり移動しないので、生息場所によって体形などに差が現れる場合がある。たとえば、北海道のマダラには沖タラと根タラの区別があり、前者は肥満して体色が淡く、沖合いを移動しているのに反し、後者はやせ形で体色が濃く、岩礁付近に定着しているといわれる。産卵期は一二月から翌年三月で、産卵は分布区域の至る所で行われ、沖合いから沿岸へ移動してくる。雄は雌に体を接しつづき激しく追い回し、放卵と同時に放精する。産卵数は一五〇万〜五〇〇万粒。孵化適水温は北海道で三〜六度Cであるが、朝鮮半島産では六、七度Cであるという。仔魚は孵化後八日ほどで卵黄を吸収し、小形甲殻類と軟体類幼生を捕食する。五、六月に三〜六センチになると深みへ移動し、一五センチほどになると底引網に入り始める。二〇センチ以上の幼魚はプランクトンのほかに底生の稚魚を食べる。成魚はいたって貪食で、スケウタラ・ニンシン・カレイなどの魚類、エビ・カニ類、ヤドカリ類、イカ・タコ類、ヒトデ類、二枚貝類、多毛類、等脚類などの底生動物をなんでもむさぼり食う。「鱈腹食う」ということばはこれに由来している。旺盛な食欲に支えられて成長も速く、三歳で四七センチ、五歳で六八センチ、七歳で八三センチ、八歳で九〇センチに達する。また、雌雄とも年間に四〇〜七〇％の体重を増すことも、本種の大きな特徴である。

主要な漁法は底引網、底刺網、延縄で、日本近海では年間ほぼ一〇万トンが漁獲されている。漢字で「鱈」と書くように、この魚は冬が旬で、新鮮なものは刺身にもするが、普通はちり鍋、煮つけ、塩焼き、フライなどにする。卵巣の煮物も美味。また、塩だら、干だら、粕漬けなどの加工品もある。↓タラ ④岡村 収



マダラガ ①タケノホソクロバの成虫
②同、幼虫
③ミノウスバの成虫
④同、幼虫

斑石 まだらいし ◇竹葉石

マダライルカ「斑海豚」 spotted dolphin
Stenella attenuata 哺乳綱クジラ目マイルカ科のハクジラ。体長約二メートル、成体では全身に斑点を生じ、吻端が白くなる。世界の熱帯海域に分布するが、体形、体色には地方差がある。日本近海では黒潮流域に数百頭の群れで生活する。一か月の妊娠ののち、一子を産む。繁殖は周年。寿命は約五〇年。餌料はアメリカ合衆国沖合ではトビウオ類とスルメイカ類が主であり、表層で索餌すると思われる。日本では追い込み漁法で年間一〇〇〇〜三〇〇〇頭が捕獲される。図レクジラ

斑尾高原 まだらおこうげん 長野県北部、新潟県境に近い斑尾山(三ツ山)の東麓に展開する高原。標高八〇〇前後で、カラマツ林などの森林地であったが、昭和四〇年代から地元の飯山市などが観光開発を進め、ホテルやペンションなどが建ち、テニスコート、スキー場など施設もでき高原保養地となった。斑尾山を一周する道路や野尻湖への林道も通じる。〈小林寛義〉

マダラガ「斑蛾」 昆虫綱鱗翅目マダラガ科 Zygaenidae のガの総称。はねの開張一五センチの小形種から八〇センチに達する大形種まであり、はねの形、色彩などさまざまなタイプのガを含む科で、成虫は昼間活動し、美しい色彩の種が多い。幼虫は成虫とも、捕食性の鳥やコウモリの嫌うにおいや分泌物を出す。体翅の美しいはでな色彩は、捕食動物に対し、自分たちの「まづさ」を広告しているものと考えられている。熱帯、ことに東南アジアに属種が多く、しばしばアゲハチョウ、シロチョウ、マダラチョウなどと驚くほど似たようなの形や色彩斑紋をもち、同一地域でチョウと同じように昼間活動する。このように擬態関係にあるものと推定される種についての、生態学的な研究はまだ十分に行われていない。

日本には二八種が知られ、大部分は小形種であるが、南西部には大形の美麗種も分布している。奄美大島以南に産するクロツバメの幼虫は、アカギの葉を食べ、色や形がジャコウアゲハとよく似ているし、成虫はクロアゲハやジャコウアゲハを連想させる。リンゴハマキクロバの幼虫はリンゴやナシの、ブドウスカシクロバはブドウの害虫としてよく知られている。タケノホソクロバの幼虫はタケやササの葉を食べ、毒刺毛をもつため皮膚に刺さると激しい痛みを感じ、湿疹ができるので衛生害虫の一つに数えられている。マサキの生け垣に被害するミノウスバの幼虫は、しばしば多発して垣根を丸坊主にしてしまう。

マダラカゲロウ「斑蟊」 昆虫綱カゲロウ目マダラカゲロウ科 Ephemerellidae の昆虫の総称。体長は種によって異なり、七〜一六センチ程度の長さ。幼虫が河川の溪流にすむため、成虫はその沿岸においてみられる。前翅はよく発達した多数の脈があり、後翅は小さい。雄の尾端の把握器は三節で、基部と末端節は短く、中節は長くして内側に曲がっている。幼虫はすくぐりしたじょうぶな体で、厚みがあり、濃い色彩をもつ。頭部や脚に棘をもつものと、またないものがある。溪流の石間のごみや石間にひっかかった流木落葉、溪流の底にたまった落ち葉などの間にすみ、体や脚に泥をつけていることも多い。幼虫の動作は鈍い。代表種は本州の河川の上流域にすむオオマダラカゲロウ

ウなどと同じようなの形や色彩斑紋をもち、同一地域でチョウと同じように昼間活動する。このように擬態関係にあるものと推定される種についての、生態学的な研究はまだ十分に行われていない。

マダラカマドウマ「斑龍馬」 Japanese camel cricket Diestramena japonica

昆虫綱直翅目カマドウマ科に属する昆虫。全身が黒白の斑模様のある大形のカマドウマである。日本固有種で、各地に普通にみられるが、北アメリカにも人為的に入り、分布を広げている。体長二〇〜二五センチ。黒色斑は不規則な形状である。触角は長い。また後肢も長く、力強い。後肢の脛節の上縁には細かい棘が間隔を置いて並んでいる。夜行性で雑食性。洞穴、林内に普通にみられ、人家の内外にも多い。↓カマドウマ

マダラゴキブリ「斑蜚蠊」 Rhodoblatta guttigera 昆虫綱ゴキブリ目マダラゴキブリ科に属する昆虫。九州南部から奄美大島にまで分布する。体は淡褐色を帯びた大形のゴキブリで、体長は雄約二五センチ、雌約三〇センチ。前胸背板中央部、すなわち頭部後方から前翅の付け根をつなぐ部分は黒色。この部分の両側と前翅は淡褐色で、褐色の小点を散布する。前翅は約二七センチ、腹端を超える。成虫・幼虫とも溪流沿いの湿った落葉下を好むが、成虫はその近くの植物上に上っていることもある。幼虫は泳ぐこともできる。↓ゴキブリ

マダラサソリ「斑蟊」 Isonetia curvipes 節足動物門クモ形綱サソリ目キョクトウサソリ科に属する陸生動物。体長は雌四センチ前後、雄七センチに達する中形のサソリ。背面には黄色の地に黒褐色の斑紋が中部で規則的に並び、腹面は淡黄色。後腹部は黄色で黒褐色の斑紋がある。体部や触肢は他種に比べて繊細な形

をしている。夜行性で、昼間は石の下、石垣の間などに潜んでいる。家屋内にもしばしば侵入するが、毒性は低いので致命的な被害を与えることはない。世界の亜熱帯、熱帯地方に広く分布し、ファーブルの『昆虫記』のなかでも弱毒の普通種として記述されている。日本では沖縄県の石垣島、宮古島に産する。小笠原諸島の父島、母島に産するものはサイパン島からの人為的移入といわれている。和名は岩川友太郎の命名(一九二六)による。図トサソリ

馬渡島 まだらしま 佐賀県北西端、壱岐水道(玄界灘)に浮かぶ島。東松浦半島北西端の波戸岬西方約七キロ、東松浦郡西町に属する。面積四・一三平方キロ、周囲約一・一キロ。玄武岩・粗面岩類の丘陵性台地からなり、最高地点は標高約二三八メートル(遠見岳(番所ノ辻))で、海岸は大部分断崖をなす。南東部の小さな入り江一帯に、馬渡島漁港と通称本村の宮ノ本漁村が立地する。呼子港から定期船で約五〇分。島名については、斑島の書き改め説や、大陸から最初に「馬渡る島」の由来伝説などをもつ。

古来、大陸交通の中継地で、遣唐使や元寇ほか、それにまつわる遺跡や伝承が多い。江戸期には唐津藩のウマヤシカの藩営放牧地があった。本村はイカ、フグ、イワシ、アワビなど各種の水揚げをもつ漁村で塊村形態をなすが、台地上の新村は畑作主体で散村形態をなす。一九八一年(昭和五六)現在、田五五ヘクタール、畑四八ヘクタール、樹園地四〇ヘクタール、牧草地一八ヘクタール、いも類や甘夏柑などを栽培し、肉牛飼育もみる。仏教徒の本村に対し、新村はカトリック教徒の集落で、教会、修道院、聖母園などがあり、寛政年間(一七九九〜一八一八)に長崎方面から移住してきた隠れキリシタンの地で知られる。海外移民をもつ。簡易水道などに依存する。玄海国定公園の一角で、釣りなどを楽しむ来島者も多い。人口七九四。

マダラスカンク spotted skunk 広義には哺乳綱食肉目イタチ科マダラスカンク属に含まれる動物の総称で、狭義にはそのうちの一種をさす。この属 Spilogale の仲間には、アメリカ合衆国中部からメキシコ、コスタリカに生息する。普通はマダラスカンク S. pygmaea とピグミーマダラスカンク S. pygmaea の二種とするが、一種にまとめる考えと、マダラスカンクをさらに三種に分ける考えもある。スカン